

# 東京まゆみ会会報

第33号 (令和3年8月)



まゆみの精神

強靱であれ その木の如く

しなやかであれ その枝の如く

清楚であれ その花の如く

誠実であれ その朱き実の如く

東京まゆみ会

目次

「会員の皆様」	東京まゆみ会会長 高橋智章	2
「東京はモナリザ」	安達高等学校同窓会会長 五輪美智子	3
「ご挨拶」	安達高等学校校長 猪俣 豊	4
出来ること！気になること？	会員 百川教彦(昭50)	5
「こんな時に渡米・・・」	会員 山田由美子(昭51)	6
故郷自慢と悔やまれる体験	会員 阿部伊勢吉(昭45)	8
第2の職場について	会員 菅野孝三(昭50)	9
海外旅行のエピソード(3) 「シドニーの旅」	会員 早川ミツ(昭37)	10
会員近況報告	東京まゆみ会 会員	11
会則	東京まゆみ会 事務局	22
令和2年度年会費納入者ご氏名	東京まゆみ会 事務局	23
現在の役員体制	東京まゆみ会 事務局	24
会からのお願い	東京まゆみ会 事務局	24
編集後記	東京まゆみ会 会報編集委員会	25

【表紙の写真】 早春の安達太良山  
 (ご提供 二本松市秘書政策課)



## 「会員の皆様」

## 東京まゆみ会会長

高橋 智章（昭41卒）

会員の皆様におかれましては、いかががお過ごしでしょうか。

昨年は、新役員体制で張り切って迎えるはずの2020年でした。ところが残念なことに新型コロナウイルス感染症の拡大という思いもかけなかった事態に見舞われ、準備してきた行事の中止、延期を余儀なくされました。このため止む無く総会・懇親会の開催を見送らせて頂きました。皆様もがっかりなさったことと思います。ワクチン接種が開始されましたが、収束そして終息の旗はまだ見えていません。まだ少し先のようなようです。

100年前に流行したスペイン風邪の時はどのような状況だったのか、当時の内務省の報告書『流行性感冒「スペイン風邪」大流行の記録』などによれば「1919年から1920年に流行したスペイン風邪では、全世界で患者数約6億人、2,000万から4,000万人が死亡した。日本国内でのスペイン風邪について、スペイン風邪の1回目の流行は1918年8月下旬から9月上旬より始まり、10月上旬には全国に蔓延した。流行の拡大は急速で、11月には患者数、死亡者数とも最大に達した。2回目の流行は1919年10月下旬から始まり1920年1月末が流行のピークと考えられ、いずれの時も大規模流行の期間は概ねピークの前後4週程度であった。この前後4週間という流行期間は、通常のインフルエンザ流行の場合と同じであった。」とあります。スペイン風邪のパンデミック

は、1回で終わることなく、大きく数回の波を経て到来し、丸2年をかけて暫く終息したということになります。

この度のパンデミック（新型コロナウイルス感染症の拡大）を俯瞰して考える上では、踏まえるべき重要な歴史的事実だと思えます。

コロナ禍の中で会議はウェブ会議が主となり、これまでと同じように「情報」を伝えることに戸惑いを感じることはありません。情報の「報」は、電話やファックス、電子メールでもできます。しかし情報には「情」の部分があります。人より早く情報を知りたい。他より早く先方の胸の内を知りたい。さらにお客様の信頼を得たいと考えれば、やっぱりその人のところへ行って直接会うでしょうし、会うことに意義があります。コロナ禍で会議はウェブ会議が主となり、どうしようもないもどかしさを感じている日々です。

恋人同士でも会えば相手の態度、表情といったノイズもつかめます。ノイズはシグナル情報にもなります。捉えかたによってはそこからいろいろなことを判断出来るわけです。同窓会も然りです。通信ネットワークがいかに発達しようとも、手紙、電話、電子メールで気持ちを伝えあっても、これは「報」にすぎません。誰に憚ることなく友に会って触れて、肩を組み抱き合い、泣き笑い共に愚痴れる同窓会はまさに「情」のコミュニケーションそのものです。安全安心が当たり前の日常になって皆様とお会いできる、そのような環境が早く整ってほしいと思います。若い方々までワクチンが行きわたれば世の中が変わるのではないかと期待しています。来年の東京まゆみ会総会・懇親会、2年後の母校創立100周年は、皆さんと一緒に安心して迎えらるるよう強く願っております。



## 「東京はモナリザ」

### 福島県立安達高等学校同窓会会長

五輪 美智子

高校卒業まで福島を離れたことの無かった私にとって、「東京」は東北本線ターミナルの「上野」の事でした。

そんな私が「東京」と初めて出会ったのは大学1年生、オリピック記念青少年総合センターでのフレッシュマンセミナーでした。初対面同士が寝食を共にし、講義を聴く4週間がスタート。若さだけが取り柄で、生意気にも講義の批評をし、学びたい歴史や文学などについて、毎晩熱く語り合いました。お粗末この上ない私の「源氏物語」を、皆は本気で聴いてくれましたし、鋭い指摘も飛んできました。今までの私なら黙りを決め込む所でしたが「もう一度、話す機会がほしい」と言えたのは、「東京」という異空間が持つ不思議な力と、代々木の若葉の生命力が、背中を押してくれたからだと思えます。「東京」は私にカルチャーショックと共に、一歩踏み出す勇気を与えてくれました。

さらに「東京」は生涯忘れがたい出会いをプレゼントしてくれました。「モナリザ」です。1974年4月20日から6月10日まで、東京国立博物館にルーブル美術館の名画「モナリザ」が来日。彼女がフランスを留守にするのは2回目です。私は講義が早く終わる日を心待ちにし、彼女に逢いに行きました。長蛇の列を避けて彼女に近づくため、入場制限がかかる閉館30分前ぎりぎりに入館し、人影が疎らになるチャンスを待つという

作戦をたてました。果たせるかな・・・彼女と一対一で見つめ合う事が出来ました。父への葉書に「東京は本物に逢える場所。自分から動けば何でも吸収できる所です。」と綴っており、赤面の至り。大事なチケットはカタログに挟みこんで、今でも机の中にあります。以来、「東京」は半世紀にわたり、「モナリザ」の如く、私を魅了し刺激を与えてくれる空間です。

「東京」に行く事が出来ない日々も2年目ですが、纏まった読書ができるチャンスだと思つて、辞書・地図・旅行案内などを脇に置き、のんびり漱石や鴎外を楽しみました。恩師や友人と汗だくで歩き回った「東京」を思い出しながら、過ごす時間は至福。今は半藤一利氏の「昭和史」に挑戦中です。60年かけ調べ考えた昭和史が、軽妙な語り口で展開されますから、門外漢の私でも十分楽しむ事ができます。読みながら、安達郡3町、25村の人々の「歩いて通える学校がほしい」という熱意の結晶として、大正12年に創立された母校安達が、世界大恐慌、満州事変から第2次世界大戦、そして戦後という激動の中、ひたすら生徒を迎え、見守り、見送り続けて来たのだと思うと、時折目頭が熱くなります。

高校の時、「歴史に学べ！」と緑川先生や角田先生にお叱りを受けたのを思い出し、今度こそ母校創立100周年の歴史を、昭和史の観点からも見直して学んでみたいと思えます。

月1回の定例会議に「東京まゆみ会会報」を紹介するや、崎田功さんの「男女共学」の寄稿に感銘を受けた役員から、100周年誌で「安達女子高等学校」の歴史を纏めたいとの意見が出されました。

東京が「モナリザ」なのは、私だけでは無かったようです。東京まゆみ会の皆様に再会する日を楽しみにして筆を置きます。





## 「ご挨拶」

## 福島県立安達高等学校校長

猪俣 豊

東京まゆみ会の皆様におかれましては益々ご健勝のこととご慶び申し上げます。また、日頃より本校教育の発展のためにご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

はじめに、「緊急事態宣言」や「まん延防止重点措置」により、不安とストレスが続いていることと存じます。心とからだを労わりながら、この難局を乗り越えられるようお祈りいたしております。

さて今年度は、新入生149名を迎え、全校生461名での船出となりました。教育活動に対するスタンスが若干変わり、「感染対策を徹底した上で可能な限り実施する」方向となったため、生徒たちは日頃の学校生活は勿論、各種行事、大会などが例年通りに行われる状況の下で、元気に高校生活を送ることができています。創立記念日（4月16日）を前にした集会では、本校の歴史や高橋信次博士の業績は勿論、本校卒業生で日本看護協会会長をお務めになつていらっしゃる福井トシ子様を紹介いたしました。生徒たちは、コロナ最前線で尽力する医療従事者のトップが自分たちの先輩であることを知り、誇りに思うとともに、コロナ危機を乗り越えるために自分がなすべき事を改めて考える機会ともなつたようです。また、教育環境の面では、ICT機器の整備が進み、日頃の学習は勿論、緊急時のオンライン指導などにも十分に対応できるようになりました。本校とい

たしましては、落ち着かない情勢の中にあつても、生徒の充実感や達成感に繋がるサポートを全力で行い、信頼される学校づくりに努めているところです。

次に、昨年度の状況についてですが、卒業生の進路は、進学131名、就職32名という状況でした。主なところでは、国立大11名（山形1、福島5、会津4、都留文科1）、私立大48名（法政2、同志社1）、及び二本松市職員1名があげられると思います。部活動については、コロナで3年生の大会がすべて中止となつた関係で新人大会の報告となりますが、バドミントン男女団体、ソフトテニス女子団体が県3位となり、いずれも東北大会の出場権を獲得しました。また、カヌー日本代表選手として東京オリンピック出場を目指していた青木瑞樹選手は、長期にわたる国内外での合宿を経て、タイで行われたアジア選手権に臨みました。結果は惜しくも第5位で代表枠獲得とはなりませんでしたが、安達高校の卒業生として立派な戦いぶりでした。今回のパリ五輪では、今回の経験をバネに、安達高校卒の新たなオリンピックアンとなるよう願っているところです。また、特色のESDにおいては、SDGsを指針とした探究活動が活発に行われており、本校の代表が東北ブロックでの発表を行いました。

今年4月、学校まわりのフェンスが新しくなりました。今後は第1体育館の改修を行い、創立100年となる令和5年度を迎える予定となっております。我々教職員といたしましては、生徒の力や可能性を引き出しながら、安達高校の伝統を守り、更なる発展につながるよう努力してまいりますので、変わらぬご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶いたします。



## 出来ること！気になること？

百川 教彦（昭50卒）

### 一 防災に関わる『3の法則』

防災に関わる『3の法則』を知っていますか？人間が生きられる時間を3に関する時間の単位で表したものが『3の法則』です。人は呼吸ができないと3分、体温維持ができない（極端に暑い・寒い）と3時間、水分補給ができないと3日、食料・栄養補給ができないと3週間しか生きられません。

地震に備える優先順位を考える、家が壊れたり、家具の下敷きになって呼吸ができなくならないように、住宅の耐震化や家具を固定すること、体温維持をするために必要な保温・保冷するものの備蓄、1人当たり1日3リットル以上の飲料水の備蓄、1週間分の食料の順になります。勿論、時間には個人差がありますが、自分の身を守るためにできることから始めませんか。

二 続いて『ローリングストック法』についてです。

災害に備えてどのくらいの備蓄をしていますか？「気づいたら備蓄していた非常食の賞味期限が切れていた！」という経験を持つ方も多いのではないのでしょうか？そこで「日常的に使いながら使った分を買い足して、常に一定の備蓄をしておくローリングストック法を使いましょう。」

ローリングストックする食料品は①常温保存可能、②そのまま食べられるレトルト食品や簡単な調理で食べられるもの、③賞味期限が1年程度の物が基準となります。また、出来るだけ

普段通りの食事に近くするために、主食・汁物・おかずとなるものを1食ずつセットにしておくことと管理しやすくなります。調理に必要な水・カセットコンロ・ボンベなども合わせて備蓄しておくことが大切です。

### 三 次は、『ヒートショック』についてです。

寒い日は、湯船に浸かり、身体を温かくしたいものです。しかし、寒い環境から急に温かい環境に入ることではヒートショックを起こすことがあります。ヒートショックとは、急激な温度差により血圧が大きく上下し、身体に悪影響を及ぼすことです。風呂や脱衣所やトイレで起こることが多いと報告されていて、消防の経験からも、冬場、入浴中に意識を失ったケースに遭遇したこともありました。最悪の場合、湯船に沈み、救命できなかった事実もありました。では、冬場等の寒い時期においてどのように対策したらよいかポイントを示します。適切な室温を保つことが一番大切です。①トイレや脱衣所を暖房器具で温める。②浴室をシャワーや湯船の蓋を開け温める。③起床時、布団から出る前に部屋を暖めるなどです。ちよつとした注意と行動でヒートショックを予防しましょう。

四 最後に新型コロナ禍での避難で事前に知っておくべき3つのことです。新型コロナウィルスの感染の収束が見えない現状において、災害時に避難所での過密を避けるための分散避難（親戚、知人、ホテルへの避難や在宅避難）と避難所でのコロナ対策が重要になっていきます。避難をする側の私たちは3つの事を事前に知っておく必要があります。1つは「地域の安全性」を知る。2つ目は、「自分の健康状態」、3つ目は、避難所での受付方法についての情報を事前に知っておくことです。

以上、お役に立てれば幸いです。



## 「こんな時に渡米・・・」

山田(旧姓塚原) 由美子 (昭51卒)

今年2月23日、90万人都市のサンフランシスコに在住する娘の出産の為、このコロナ禍の中、命を賭す覚悟で渡米した。

葛藤の始まりは昨年の10月頃からだ。その頃のアメリカのコロナ感染者は1日10万人を超えていたので、高齢者に片足を突っ込みつつある私は、見た目には頑丈そうに見えるかもしれないが、少々怖気づいた。

娘達は、昨年3月に婿の実家の目の前に引越しをしたのだが、友人達からは「正気なの？」と言われてしまう程、アメリカでも奇異な事の様だ。でもフレンドリーで面倒見の良いご両親なので私が行かなくても・・・とも思っていた。しかし、娘の私への期待度は当然高く、いかにコロナ対策をしつかり取っているかを得々と説明された。12月に入り「行かずに後悔するより、エーイ、行ってしまおう！」と一大決心をし、便にかなりの制限があったが、全日空のチケットの手配に踏み切った。そしてコツコツと貯めたマイレージポイントを全面的に使用し、隣席との距離等を考慮の末、思い切つて初のビジネスクラスにした。機内食が豪華で銘柄ワインも飲み放題のフリーズにも惹かれたのだが・・・。

次は親族に話をする番だ。最初は反対されたが、帝王切開の可能性もあることや、娘からの受け売りの安全性を唱え、どうか説得した。ただ夫だけは最初から反対をしなかった。徐々に準備を進めていく私を見ていて、これは実行に移すと読んで

いたに違いない。それにやはり娘は可愛いのである。

7週間も1人になる夫の為には、毎日届く生協の宅配を手配し、夕食の心配だけは無くした。後は何とかなるでしょう・・・いよいよ渡航72時間前のPCR検査の日。米国と提携している近所の医院にて、長い綿棒を鼻腔奥まで入れられ、涙ぐみながら3万5千円を支払い、翌日英文の陰性証明書を受け取り、さあ準備は整った。

2月23日午後10時、羽田空港の閑散としたゲートをくぐりいざ機内へ。

ここがビジネスクラスなのね・・・。他に3人しか人影が無い。更に、2〜3分毎に換気される仕組みで心配は無用のようだ。シートはフラットになるし、モニターも大きい。客室乗務員の方は、うっかり物も落とせない程お気遣いが半端ない。さあ豪華デイナー、と思っていたら深夜便なので軽食のみという説明にうなだれた。しかし美味なワインを頂き、気持ち良くしばしの安息についた。

約9時間の快適な空の旅を終え、いつもと様子がまるで違うサンフランシスコ空港に到着。頼もしい婿が出迎えてくれた。

1年半ぶりに会う孫達のはしゃぐ声を聞きながらお土産等を渡した後は、娘が作ってくれた夕食を、1階の私の部屋まで婿が運んで来てくれた。けれども玉羊羹のような大きなお腹を目の当りにしたらとても悠々自適という訳にはいかず、4日後の検査機関での陰性結果を見るまでもなく、翌日からマスクをして、家族と接触をせざるを得なかった。

小学1年の長男は、毎日朝9時〜11時までオンライン授業。昨年8月の入学式から一度も登校叶わず。次男の保育園も休園中。遊びは室内と実家との間の路上。私も人生初のキックスケ



ターや鬼ごっこ、フリスビー等を一緒にした。婿は1年以上も元来発達しているテレワーク。娘の検診もリモートだ。食品は単独で大型スーパーで大量買い出し。日用品は殆どネット注文。毎日のように宅配物が玄関外に置かれる。

3月初旬、州民の努力と我慢により、1日30人程度の感染者に激減してきたので、ようやくレストラン屋外での飲食が許された。しかし厄介なことにアジア人へのヘイトクライムは日に増していき、危険地帯への外出は必ずアメリカ人の婿が行したが、幸い一度もそういった場面には遭遇しなかった。

3月7日、婿のみの付き添いにて普通分娩で無事に女兒が誕生した。あちらでは無痛分娩が主流なので体力が早期に回復するからなのか、皆保険ではないからなのか、通常だった1日で退院するので、その都度驚いてしまう。

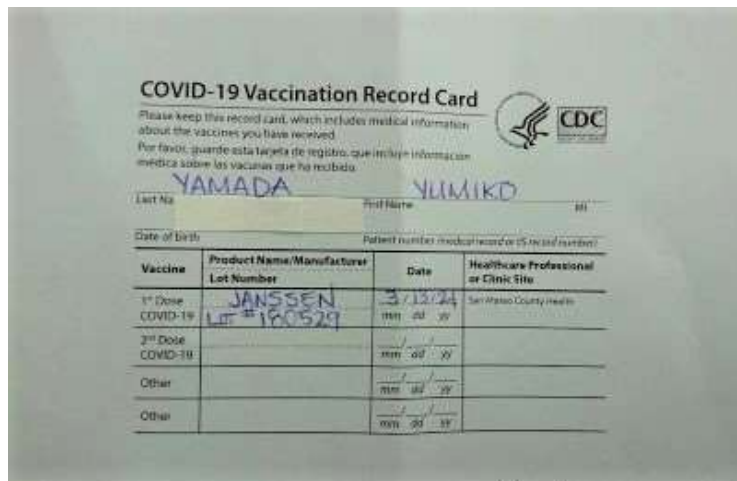
待ちに待った赤ちゃんをお兄ちゃん達は嬉しそうに抱っこした。グランマは待望の女の子に、そっと目頭を押さえていた。

私も久しぶりの子(孫)育てや大量の家事に奔走したが、カリフォルニアワインだけは欠かさなかった。いえ、1日だけ休肝日がある。コロナのワクチン接種を受けた日だ。3月13日、最寄りのドライブスルー会場にてあっけなく接種完了。その場で証明書まで発行された。スマホを駆使してQRコードを取得してくれた娘と、大らかなお国柄に感謝した。

4月4日、2回の接種済みの親族達と、クリスマスに次ぐイベントのキリスト復活祭(イースター)も、マスク無しでのお祝いがいよいよ、子供達は恒例の卵探しに夢中になった。

冷や汗ものの英語圏での生活と、名残を惜しむ娘達に別れを告げ、4月10日、またも豪華ディナー無しで夜明けの羽田空港へ着陸。唾液検査による4度目の陰性確認。7週間ぶりに我が

家へ帰還したが、政府から毎日届くメールによる健康観察と位置確認への返事を余儀なくされ、心身共に自由の身となったのは2週間後のことだった。  
今、情勢は逆転し、あちらは規制解除、こちらは逆に危ない国になってしまった・・・



ワクチン接種証明書  
(米国疾病予防管理センター発行)





## 故郷自慢と悔やまれる体験

阿部 伊勢吉 (昭45卒)

私はじめ安達高校昭和45年卒の同期は、順次古希を迎えております。同期の中には孫に囲まれて余生を送っている方や家族の要望で引き続き働いておられる方もいます。

さて、2011年3月11日の東日本大震災から10年が過ぎましたが、未だに気が休まる日は到来していません。首都圏に住んでいますと、時折携帯電話に緊急地震速報が鳴り響き、揺れに備えますが、都内では震度1から2前後なのでほととします。しかし、関東周辺地の震源地は震度4、今年2月の福島県では震度6など、未だに大きな地震が起きています。

このことは東日本大震災の余震期間中と言われており、他人事とは思えず、常に故郷のことが気に掛かっております。

逆に、首都圏は、昨年早々から新型コロナウイルス感染症の拡大で緊急事態宣言が発出され、不要不急の外出や会食なども控えて感染予防に努めています。故郷の親族や故郷の同窓の皆様には大変ご心配をお掛けしている状態です。

さて、このような厳しい状況にあっても明るい話題はあるものです。

以前の会報で、私が関西で勤務していた平成10年前後、仕事の関係で日清食品大阪本社に出入りしていた当時、後年放映されたNHKの連続ドラマ「まんぷく」の主人公、日清食品の創業者安藤百福氏の奥様が二本松神社ゆかりの方であることを知っていたら、と悔やまれた話をご紹介しましたが、さらに、昨

年の春から放映されたNHK朝の連続ドラマ「エール」では大きな衝撃を受けました。

私は、安達中学校から安達高校までの6年間は野球に打ち込んでいました。高校3年の夏の大会初日は信夫ヶ丘球場で入場行進曲「栄冠は君に輝く」を聞きながら、希望に燃えて行進したものです。お恥ずかしい話ですが、朝の連続ドラマ「エール」を見るまで作曲家古関裕而先生は福島出身で、歌手の伊藤久男先生は本宮出身であったことなど知りませんでした。

私は高校を卒業してから京都で7年間、その後、再び仕事の関係で京都、大阪で4年間過ごしました。これらの地域は熱烈な阪神タイガースファンが多く、よく職場の同僚たちに誘われて甲子園球場へ行つたものです。阪神タイガースが勝つても負けても「六甲おろし」の大合唱です。実は、この阪神球団の作曲家も古関裕而先生です。関西で生活していた当時、甲子園球児向けの「栄冠は君に輝く」と阪神ファン向けの「阪神球団の歌」は、作曲家が地元出身者であることを知っていたならば地元福島・二本松のことをもつと誇りに思つて語る事ができたのではないかと悔やまれます。

しかし、昨年の朝の連続ドラマ「エール」は視聴率が非常に高かったと聞いています。お蔭様で、地元福島、川俣、二本松、本宮を全国の方々に知っていただいたことは勿論の事、震災復興に向けて奮闘している地元の方々にも大きな励みになったと思います。

最後に人生百年に向かって残りの人生を明るい希望を抱き、且つ楽しもうではありませんか。

末筆ながら「東京まゆみ会」の発展と会員様の今後益々のご健勝をお祈り申しあげます。



## 第2の職場について

菅野 孝三（昭50卒）

今、北区は大河ドラマ「青天を衝け」で話題となっており、飛鳥山公園には渋沢記念館等があります。第2の職場でありました「北区防災センター 地震の科学館」についてご紹介したいと思います。

国の「防災基地モデル建設事業」の一環として昭和59年11月に開館した東京初の防災センターです。平時は、老若男女を問わず、防災について楽しく体験し学ぶ施設として運営されています。大地震発生時は、区役所の災害対策本部施設として役割を果たす施設でもあります。

防災センター内の展示ホールは、地震について学べる場所として、ホールに入ると直ぐに平成7年1月17日5時46分に発生した「阪神淡路大震災」の住宅台所の再現が生々しく展示されており、「命を守る」「地震の基礎知識」「地域を守る」など色々なことを学ぶことができます。体験型の設備も豊富で「地震体験」は震度2から7まで上下・水平・左右の揺れ、また、過去の大地震（関東大震災・阪神淡路大震災・熊本地震等）を起震装置で再現して、揺れの激しさや恐ろしさを学びます。（地震等についての説明もあります）



続いて「煙体験」では、煙の速さや煙の怖さを体感し火事が起きたらどのように行動して行けば良いのかを学んでいただく。（過去の悲惨な火災事例等も説明してくれます）さらに「消火体験」では、訓練用水消火器を使用し、消火器の種類や操作手順及び消火時の方法を教えています。（消火体験は小学3年生以上が対象となります）

また、応急救護体験室では、AED（自動体外式除細動器）を活用した心肺蘇生の仕方や三角巾による止血方法及びロープの結索等を学ぶことができます。体験型訓練時には、消防OBの方が常時3名位おりまして、親切丁寧に指導してくれますので安心して出掛け、体験してはいかがでしょうか。

第2の職場について説明させていただきましたが、首都圏では30年以内に70%の確率で大地震が起きると騒がれていますので、体験して自宅等の「防災は大丈夫」であるか再度確認ができるのではないのでしょうか。

5年間防災センターで勤務させていただきましたが、来館者に対し「一期一会」の思いで、楽しく指導し「自助・共助」の大切さを伝えることができましたと自負しています。これからは、時間の許す限り我が町会の防災部・地域部の担当として、「町の安全・安心」を守っていく所存です。

最後に、現在コロナ過で体験時の人数等の制限がありますので事前連絡等をしてからお出かけください。

住所 東京都北区西ヶ原2丁目1番6号

開館時間 9時から16時「展示のみは17時まで」

入館料 無料（5名以上の場合は、電話予約要）

休館日 月曜日（祝日の場合は直後の平日）

電話 03（3940）1811

## 海外旅行のエピソード(3)

### 「20001年シドニーの旅」

早川 ミツ (昭37卒)

夜成田を発ち、朝シドニー着、時差が少ないので楽でした。午前中は、羊の毛を刈るショー。あつという間でした。それからコアラ、カンガルーと触れ合い、コアラは、ユーカリの葉を食べるので、寝ていました。(ユーカリはアルコールを含む)

東窓から「トムクルーズ」のタワーマンションが見え、メゾネットで日本間もあるそうです。(億ションです)

ホテルは、ゴールドコーストの外れ、朝の散歩で、道路に降りるとき不覚にも転びました。歩くと痛く、保険に入っていたのに、姉が「大丈夫」と云うので、医者にも行かず、皆さんから頂いた湿布で凌ぎました。日本は1月で、雪が降り、雪かきで腰が痛い人が湿布を持参して来ていたので助かりました。

お昼にTボーンステーキに挑戦、半分も食べられませんが、シドニーの人は、毎日肉を食べるので、牛は放牧し、日本向けは、牛舎で色々な餌を食べさせ、霜降り。最近では、霜降り肉に目覚



カンガルーと筆者



オペラハウスを望む

めたようです。

オペラハウスは素敵、屋根は、白と  
ベージュのタイル、太陽光の反射で、白く見えるそうです。

オリンピックの会場も色々見学しました。

ブルーマウンテンは、原

住民のアボリジニが、ユーカリの林で生活をした処です。ユーカリの葉から出るガスでブルーに見えるのです。中腹の展望台迄はジェットコースターで行きびつくりです。

最後の日、ホテルドクターに通訳付きで転んだ足の具合を診て頂きましたが、私がいらぬ事を云ったことで、医者はテーピング処置もしないで帰ってしまいました。

帰国して入院も出来ず、家で治療して症状が悪化。

いわゆる下駄骨折でした。

この旅をもつて、海外旅行はジ・エンドになりました。



ブルーマウンテン



オリンピック・スタジアム

## 会員皆様の近況

(頁11～21、卒年順・あいうえお順に掲載、敬称略)

### ○巻山 寛(宍戸)(昭23年卒)

27年1月より「要支援2」の決定を受け、私の家の近くにある介護老人保健施設・葵の園・松戸「迎え」「送り」により毎週2回ご厄介になっております。

私は91歳半の年齢ですが、前記により、リハビリに頑張っています。通常の外出には杖をついて歩いています。

葵の園でのリハビリには看護援助師の方がついて来ますので、どうやら歩けるようになってまいりました。

(園の中では、歩くことがリハビリの中に入っています。)

### ○高橋 功(昭25年卒)

幹事の皆様のご苦労深謝申し上げます。

### ○一平満男(昭25年卒)

野山は一面鮮緑に覆われ「コロナ禍」の暗い心を和らげてくれる今日です。

私は、現在老妻と二人暮らしで「家庭菜園」「花壇」「草取り」等しながら、自治会の活動に参加いたしております。

7年程前より膝を痛め、整形外科医に通院中です。いつもながら素晴らしい会報、行事連絡をいただき自分の行事を優先し欠席した事をお許し下さい。

東京まゆみ会の益々のご発展をご祈念申し上げます。

### ○糖沢ジョセフ JR (昭25年卒)

わざわざ大阪までお知らせ下さり、ありがとうございます。大阪に来て早6年になりました。すぐにでも東京に戻りたいと思っていました。引越しても大変な労力がいます。

コロナで大変な事になっておりますが、皆様も身体に気を付けてお元気で過ごしてください。

### ○松井重喜(昭25年卒)

光陰矢の如し、希望を胸に東京に出てから70年余り。

学業を終え就職(総理府)、そして職を離れたのは65歳。あれからでも25年。9月に90歳になります。

42歳の折、神経痛に罹り、医者への勧めもあり山登りに精を出す。性に合っていたのか、体は丈夫になり、大病も知らずに過ごすことができました。だが、寄る年波には勝てず、昨年6月に骨折。神経痛のぶり返し、筋力の弱りを告げられ、目下、医者通いです。会員皆様のご健勝をお祈りいたします。

### ○遠藤 修(昭26年卒)

大変な時期に本当にご苦労様です。当方は3年前に椎間板ヘルニアを患い手術をしました。そのせいか、左足に坐骨神経痛が残り、現在もリハビリを続けています。体の方は幸いに元気で、ダンスはコロナの関係で会場が閉鎖され卒業しましたが、テニスと卓球はリハビリを兼ねて続けています。

しかし、何と云ってもこの3月に米寿を迎え本当の老人の間入りをしました。どのサークルに行っても自慢できるのは「年齢」だけとなりました。まさに「老骨に鞭打って」の心境です。



## ○菅野 明(昭26年卒)

ワクチン申し込みは混雑を避けて、10日ほど遅れて申し込みました。近所の小学校で夫婦同時に接種してもらえなのが7月11日となりました。2回目は1回目が終わってから申し込むことになっていますが、恐らく8月初旬になり、抗体ができて少し安心と言えるようになるのは8月下旬と思います。

3か月先の楽しみができて、少し明るい幸せな気分を味わっています。若い方々にまで早くワクチンが行きわたれば、随分と世の中が変わるのではないかと楽しみにしています。

1年後には 東京まゆみ会 実開催できますように。

## ○鈴木 衛(昭26年卒)

私は二本松市杉田出身、新制高校第一期生(昭和26年卒)です。卒業後、警視庁に入り40年勤続、平成3年3月退職しました。その間、新宿署在任中、自身の生死を賭けた事件の当事者となり、九死に一生を得て今も生きております。(事件名は「横浜銀行新宿支店におけるけん銃強盗事件」)。

退職後は違った分野で仕事をして25年、併せて65年の仕事人生。85歳まで、辞めて25年。今はエブリサンデーの毎日。運動不足解消のためクロスバイクで週3回程遠出(1回20キロ、30キロ)をして時間を消化しております。

## ○寺島忠雄(昭26年卒)

耄碌一步手前と云う感じですが、お陰様まで元気に過ごしております。

旧友達との交遊もさびしくなりました。たゞたゞ国運の隆盛と皆様のご健勝をお祈りするばかりです。

## ○安齋正敏(昭27年卒)

卒業後約70年、何とか生き延びていますが、こんな世の中になるとは思ってもみませんでした。

学友の多くは亡くなり、身体が不自由になって病床に臥す友人も増えました。残された時間、健康保持に努力しながら、せめて母校創立100周年のその日を見たいものですがどうなりますか。往時茫茫、青少年期を戦後の混乱期の中で過ごした者として後世に向けて戦争のない平和な世の中が最大の願いです。

## ○崎田 功(昭27年卒)

## 亀谷坂観世音堂に復元算額奉納される

この4月、達高同級生M君から、福島民報コラム「あぶくま抄」の切り抜きが届いた。亀谷坂観世音堂に復元算額が奉納されるとの記事であった。

数日後、元安達高H先生から、亀谷坂観世音堂で復元者「街角の数学」の奉納祭と、主宰者・五輪氏(元安達高先生)の講演会があったことの知らせがあった。丁度、「和算の郷・二本松」(算額)の纏めと、機を一にしたことに感激した。

「街角の数学」の復元第1号は杉沢の愛宕神社、2号は木幡村隠津島神社であり、亀谷坂奉納は第3号となる。

二本松文化の見事な掘り起しである。

## ○武藤長允(昭27年卒)

幹事役ご苦労様です。申し訳ありませんが、都合により総会は欠席いたします。

小生は昭和21年4月入学し、入学式では新入生代表として宣誓の大役を担いましたが、学制改革により、以後4年間、

我々は最下級生として過ごすことになりました。

印象に残るのは、昭和22年頃、校歌作詞者土井晩翠先生の講話を大講堂で伺ったこと、テニス部の同級生たちが全国大会で優勝し、凱旋時には二本松駅から校舎まで全町挙げての提灯行列で迎えたこと、昭和25年全国高校新聞コンクールで第3位入賞し部員一同大いに盛り上がったこと、などです。昭和27年卒業ははるか昔となりましたが、母校一層の発展を望むばかりです。

### ○安斎善雄（昭28年卒）

「酒は人の喜怒哀楽そのもの」

（酒販店社長 佐々木実さん 朝日新聞より）

コロナ禍、1年半、多々在る中で楽しみの飲食会中止、更にここに至って散歩がてらの一杯の酒と語らいを奪われました。人との会話無しの世は、本当無意味ですね、仙人への道のは遠く遠く感じています。

何とか元気でいます。順番で、一昨日コロナワクチンを受けました。余命1年は保証でしょうか。世界を見渡せば恵まれていますね。みなさんお元気で！再開を楽しみにしています。

### ○鈴木 弘（昭28年卒）（ご長女 鈴木真澄様からのお便り）

「東京まゆみ会」のお知らせありがとうございます。

父 鈴木弘は、5月2日に86歳にて永眠致しました。

毎年「東京まゆみ会」に参加するのを楽しみにしておりました。皆様にお会いして帰ってくる嬉しそくに話しをしていました。

生前は大変お世話になりました。

コロナ過で大変な世の中でございますが、皆様どうぞご自愛専一にお過ごしくださいませ。

### ○撞井ヨウ子（昭29年卒）（ご家族からのお便り）

お世話になっております。

2019年11月より、母撞井ヨウ子は老人ホームに入っております。

日々穏やかに生活しております。

### ○斎藤俊行（昭30年卒）

学窓を離れ幾星霜（60余年）。最近、しきりと若い時分が想い出されます。小生、74才にして脳梗塞発生。ところは、大阪市内で会議中の時でした。

爾来10余年、最近、ボケ防止にピアノ演奏。今月24日に、千葉の稲毛でピアノの発表会が行われます。昨年はコロナ騒ぎで中止となりました。楽譜は何かなるのですが、拍がまともでなく、とても苦勞の連続です。何とか頑張っております。パソコン習熟参加に苦勞しております。

### ○菅野寛雄（昭30年卒）

「新型コロナ緊急事態宣言」が解除になったかと思ったら、今度は、「まん延防止重点措置」の地域に追加され、新型コロナ禍は収まる心配がありません。

小生、糖尿病や高血圧など「基礎的疾患」を持つ身では、思うように外出すらもできません。

4月12日から高齢者の「ワクチン接種」が始まりましたので、早く接種ができるよう願っております。

## ○鈴木史朗(昭30年卒)

拝啓 東京まゆみ会の幹事の皆様、コロナ禍の中、ご苦  
 労様です。今后共、よろしく御願ひ致します

私も85歳を迎えますが、大きな病もなく、静かな余生を楽し  
 ませて頂いております。

またいつか、皆々様とお会いできることを楽しみに、元気に  
 体に気をつけて頑張ります。

## ○蓮見 隆(昭30年卒)

趣味の社交ダンスが、3蜜のためレッスンの教室が閉鎖され  
 ており淋しい限りです。

このためハーモニカで「アメージンググレース」や電子ピア  
 ノでベートーヴェンの「エリーゼのために」等、練習し始めま  
 した。高齢のためうまくは演奏できませんが、自身のボケ防  
 止には最高の、指を動かしたり、楽譜を読む行動となり、確実  
 に役に立っている様です。

ことを始めるに遅すぎることはないと言ふ諺を信じて84歳  
 続行あるのみです。

せつかくの人生ですので、コロナ禍ごと楽しみましょう。

## ○本田 茂(昭30年卒)

最近は新型コロナの中どこへも出かけられずモヤモヤした毎  
 日を過ごして居ります。その上ギックリ腰になり、3週間ほど  
 苦しんで居ります。痛みはなくなつて来ましたが、まだ散歩が  
 出来ない状態といった所です。総会に出席できるか心配して居  
 る所です。今年の9月10日で85歳になるので、やはり歳かな  
 と思つて居る今日です。会長さんも体に気を付けて下さい。

## ○宮田陽三(昭30年卒)

私の現況を報告します。まず健康状態ですが内臓的には別に  
 問題ありませんが、以前からの腰痛が余り良くなく、通院治療  
 中です。それ故、余り積極な行動等は出来ません。尚、年齢も  
 4月23日にて85歳になりました。それ故、10月17日予定の  
 総会懇親会の出席等も現在のところ不明です。悪しからず。

尚、総会・懇親会が間近くなつたら再度連絡があると思いま  
 すが、その時は極力参加したいと思つております。

※ 幹事さん本当にごくろうさんです (以上)

## ○油井文子(昭30年卒)

東京まゆみ会の為にご尽力され、ご苦勞様でございます。

この程総会のご案内を頂戴いたしました。コロナ禍・高齢  
 でもあり欠席させていただきました。自身は毎日、曾孫達の相手  
 をし、至つて元気に暮らしております。

まゆみ会総会のご盛会をお祈り申し上げます。

## ○大島庸世(昭32年卒)

新緑の美しい季節となりました。まゆみ会には、大変お世話  
 になつております。コロナ禍の中、不自由な毎日ですが、今年  
 はなんと4月の「モダンアート協会展」(上野、都美術館)  
 を開くことが出来ました(昨年は急遽中止に)。喜びも束の  
 間、6月初旬に予定していた主宰する「V e g a 木版画展」  
 は、残念ながら延期となつてしまいました。10月末頃と希望  
 は出していますが、日取りはまだ未定です。

ワクチンが行き渡り、10月頃は、今より少しでも穏やかな  
 日々が訪れることを心から願うばかりです。(5月19日)

## ○紺野英男(昭32年卒)

年齢80歳を超えたいま、母校在学当時のことなど唯々なつかしむ日々を送っています。市ヶ谷会館を会場とする頃から、総会に参加させて頂きましたが、ここ数年、体不調等により参加出来ませんでした。残念な過ぎりです。

最後に、会存続の為お骨折りいただきありがとうございます役員の方々に感謝いたしますと共に会員全員のご健勝を祈ります。

## ○佐藤邦英(昭32年卒)

山岳写真撮影を趣味としておりますが、コロナ禍のために昨年は、2月1回、9月2回、10月1回、今年、4月に1回

(山形県・小国町) 県外に行き撮影して来ました。

現在、日本山岳写真協会と全日本山岳写真協会に所属しております。昨年は、どちらも写真展が中止になりました。

今年、全日本山岳写真協会が6月9日～21日国立新美術館、日本山岳写真協会が8月31日～9月8日東京都美術館で写真展を予定しております。両協会とも会員として出展します。お時間がありましたらご高覧下さいますようご案内申し上げます。

今年、桜の開花が早く、3月下旬には、母校の桜が満開となり綺麗でした。また、校舎周囲のフェンスが新しくなりました。帰省の際にご覧ください。

## ○鈴木徹郎(昭32年卒)

お言葉に甘えて一筆啓上。

「あゝ神様、百年一度の奇禍に遭い悲しい。残りわずかな刻(とき)を返されよ。」

神申す。

「ペストクラスの悪魔ではないぞよ。人間どもは、森羅万象の真理を敬え。」と申されたかどうか。

「あゝ神様、私は弱き者、救いたまえ。」 (了)

令和3年4月吉日

## ○諏訪親太郎(昭32年卒)

後期高齢者、自宅に閑居して、青年の頃思い焦がれた人を懐かしむ。

〈小学生〉成績の良い可愛い同級の女の子、高校の時、その父親が校長で赴任して来たっけ。

〈中学生〉クラスと一緒にすることはなかったが、憧れていた人、卒業とともに他県に引っ越して行っちゃった。

〈高校生〉転校生で、そして間もなく転校して去った色っぽい美人。後、大学の時、実家近くに越してきて吃驚。

〈大学生〉麻雀に夢中、授業サボって講義ノートを見せてくれた同じゼミの麗しき女子大生。

扱、彼女ら今、どうしているのだろうか？

## ○保坂弘子(昭32年卒)

未聞のコロナウイルスにより不自由な生活を余儀なくされた状況の中、皆様お元気ですか。

私は今、新舞踊の名取として、生徒さんと充実した時を過ごしておりますが、コロナ禍になり地域に根ざした踊りもできなくなりました。が、終息に向けて祈り、自身の鍛錬の時と、頑張っております。希望ある前進で、今日より明日、1日も早く元の日々が訪れることを、強くご祈念申し上げます。



## ○武藤國造(昭32年卒)

コロナウイルス禍に思う

柳瀬川の下流堤防に沿って田んぼが残っていて、富士山を見ながら一詩吟ずればコロナウイルスは忘れる。

そこは、流域共鳥獣保護区で、カモ、シラサギ、キジ等が生息していて、双眼鏡やカメラを構える人も見受ける。

適当に叢もあり、キジは5〜6の縄張りに別れ、オスは目立ち、羽ばたいて鳴き声披露も珍しくない。

キジに会うのは楽しみで、何羽見たかは家の話題である。

## ○渡辺昭雄(昭33年卒)

お便りありがとうございます。

小生、傘寿を越えましたが、今の処、健康に支障なく過ごして居ります。

昨今のコロナ禍で外出も出来ず、室内趣味のみです。

お互い、コロナ禍に巻き込まれない様、気を付けましょう。

## ○安斎 隆(昭34年卒)

その頃にはワクチンは行き渡っているでしょう。

何故こうも遅れてしまったのか。

日本の政治も、官僚のやることも、当てにならなくなりまして。

10月17日の東京まゆみ会、楽しみにしております。

小生、大学の卒業式2回、入学式2回、その他に昨年入学式をやれなかった2年生の入学式1回としゃべりまくった1ヶ月でした。

## ○氏家盛通(昭34年卒)

新型コロナで従来通りに行えないことが沢山出て来ております。70歳を過ぎたところに、年寄りには「キョウイク」が必ずやだと言われましたが、何をいまさら教育かと思つたものでした。しかし、これは「今日行くところがある」「ことが必要、ということでした。

ふるさと会や同窓会などが次々に中止になり、行くところがなくなりまして。これが数字に出ていることがあります。

市内の移動は敬老パスを使いますが、市外に行くときはパスモを使います。2019年1年間での利用料金は18,676円でしたが、2020年3月より2021年3月までの13か月で2,950円でした。

## ○移川栄二(昭34年卒)

東京まゆみ会総会(10月17日)は都合により欠席させていただきます。

近況、私は健康体操教室、長野先生に7年間80歳まで指導を受け現在に至っております。健康です。皆様によろしく。

## ○藤田孝男(昭34年卒)

脳トレに麻雀、月2回。体トレに卓球月8回、2グループで。明日はわかりませんが何とかくらししています。

## ○三浦利栄(昭34年卒)

今年と同級生とも逢いたいと思いますが、こんな世の中(コロナ)陰気ですので、今年も10月予定が伸びるのではと思っております。それでは失礼します。

## ○山本紀夫(昭34年卒)

18歳以降病気知らず(80歳)、まゆみ会には東京に戻った時、安斎隆氏の紹介で入会(50歳)、まゆみ会の役員を務めてきました。在京には34年卒で15人位おり、「辰と巳の会」があり、年2〜3回ゴルフ、新年会で集まっております。

近年は、コロナで中止続き、幹事役の渡辺浩司氏には感謝するばかり。再会を楽しみにしています。

高校の仲間にあうのが一番楽しい。

## ○最上 茂(昭35年卒)

近況を報告ということですが、このコロナ禍では自粛生活の毎日が専らです。

趣味の山登りも、以前は月に2度程行っていたが、直近6ヶ月では3〜4回しか行っておりません。また、日課にしているウォーキングは、雨の日以外は1日約12,000歩程歩いています。ウォーキングしていると四季折々の花が路傍に咲き誇り、目を楽しませ、歩行を軽やかにしてくれます。これから身体に気をつけながら、まだまだ続けて行く気しております。

コロナが早く終息し、10月17日予定のまゆみ会が開催されることを願っております。  
(令和3年5月20日)

## ○佐藤利春(昭38年卒)

退職して15年、埼玉県加須市、緑豊かな農村地帯でザリガニどじょうと戯れ、農家さんの畑を借り家庭菜園の毎日です。

野菜作りの第一は「ニョキ！」と力強く出る芽の瞬間の感動するときで、それが今、ジャガ芋です。手を加えてやればそれに応えていただけるのが野菜で、わが息子孫よりも頼り甲斐を

感じるひとときです。

コロナ禍、家と畑の往復でストレスの解消となっております。皆様方益々お元気で!!

## ○七森栄子(神野)(昭38年卒)

世界中が未曾有のコロナ過の試練に晒されています。3度目の「緊急事態宣言」が発令されましたが同窓の皆さま、お元気にお過ごしでしょうか？

私は今年「喜寿」を迎えますが、現役の伝統芸能ライターで走っています。

春には趣味の家庭菜園での野菜作りが出版社の目に止まり、『ふくしま』のおばあちゃんが教える美味しい漬物の作り方(KKロングセラーズ刊)を出版しました。

コロナで「お家ご飯」がブームです。

懐かしいふるさとの漬物を作って欲しいです。ジッパー付き保存袋でつくれるので人気です。

## ○山口弘二(昭38年卒)

東京オリンピック大会の開催まで100日を切ったが、新型コロナウイルスの影響でいっこうに盛り上がりが見えない。

昭和39年の東京オリンピック時に私は、東京消防庁支援隊員として国立競技場に派遣されていた。

入場行進は、わが故郷福島出身の古関裕而氏の作曲した行進曲である。古関裕而氏は、母校旭中学校歌、東京消防歌の作曲者であり、特に感激したことを覚えている。

今回もあの曲が国立競技場から世界中に響き渡ることを期待する今日この頃である。

## ○ 中根珪子 (昭39年卒)

おたよりありがとうございます。  
私は相変わらず絵の制作をしています。

一番最近では、4月に東京都美術館にて、昨年2月に国立新美術館で展覧会、応募しました。

国立新美術館では復興の相馬を描いた「相馬の宴」が文部科学大臣賞になりました。両展とも安藤(前)会長様に来て頂きましてありがとうございます。

これからも郷土の風景など描きたいと存じます。

10月17日頃は、世の中も落ちついて元気に皆様とお会いしたいとせつに思っております。宜しく願います。

連絡頂ければ展覧会招待状お送り致します。

080・5516・6613 なかね

## ○ 山崎民子 (昭39年卒)

今年の春は早い訪れで、花も緑も美しい季節になりました。

お陰様で、私元氣です。

大変な世の中になりました。

近場に行くだけのみに時間が有り、家の中の雑務整理です。

テレビ鑑賞が多くなりました。明日から大型連休始まり4月

29日から遠出できず、忍の一字の日々です。

健康が第一！皆様の幸福をお祈り申し上げます。

(4月28日)

## ○ 本間幸次 (昭40年卒)

ご苦勞様です。2、3年に1度同級会を行っておりましたがコロナの影響で中止になったまま。次回は何時になるか。

早いコロナの終息を待ちわびております。

## ○ 小池茂樹 (佐藤) (昭41年卒)

小学校教師卒業後も、田舎でもない都会でもない、福島と大差ない環境の中で暮らしています。

相続により親の財産を引き継いで、介護施設、共同住宅、駐車場などの賃料と維持管理が日常の仕事です。

我が家は、大地の恵みを味わおうと、畑では四季折々の旬の野菜を育て、裏山では椎茸、みかん、茶など栽培。同時に、育てる楽しみもあって面白いです。

一日も早く自由に旅行できる日が来ることを願っています。

## ○ 齋藤和夫 (昭41年卒)

鯉のぼりの泳ぐ季節となりました。コロナ禍のなか、1年以上が過ぎました。私にとっては大変な1年でありました。令和2年2月に叔母、9月に叔父、そして5月には最愛の義理の息子を亡くしました。

自身は、昭和45年卒の佐藤富美夫氏のお誘いで、長南邦年

氏、会長の高橋智章氏と昨年の11月10日に「紫あやめ36」でゴルフを楽しみ、17日はプライベートのゴルフをした翌日

(18日)、突然椎間板ヘルニアになり、約4ヶ月も寝込むこととなり、最近ようやく少し歩けるようになって来ました。

私は、60代の後半直腸ガンを発症し、肝臓の右左、肺の右左に転移も見つかり、ステージ4の末期ガンと宣告されました。

が、化学療法、手術を経て、今年の4月で5年がたちました。4月23日には74歳の誕生日を迎える事が出来ました。

バンザイ(神に感謝)東京まゆみ会の皆様も体調を崩さないよう、くれぐれもご自愛ください。

## ○高橋悦子(昭41年卒)

役員の皆様ご苦勞様です。

私は、一戸建てで一人暮らしになり、近くの孫が気管支炎や肺炎に何度もなり、小児科医に環七の空気が悪いところだから親と家を交換したらと言われ、マンションで暮らしています。孫も今は小学生になり、英語塾に送り迎えや、料理を作ったり、自分の健康の為に手伝っています。

コロナが流行してからは福島にもいかず、旅行(国内外)、食事会もいかず、じつとガマンの日々です。

家にいる時は、テレビを見たり、小説を読んだり、ピアノを弾いたりしています。年をとり自分の健康が第一ですね。

皆様と逢う日まで元気にいましょうね!!

## ○太刀野静子(昭41年卒)

毎日はずきりしない日を送っています。コロナ早く収束するといいですね。

退職してから、畑を借り野菜を作っています。無農薬なのでとても美味しく食しています。まあまあの野菜できた時は、とても嬉しいです。今は、下へ下へと根を伸ばし、早く花を咲かせたいですね。我慢の時と思います。

## ○築山くに子(昭41年卒)

母の日に母を思う

母は70歳、胆管がんで他界、大正4年生まれで人の役に立ちたいと看護師を目指したが、戦争中で、両親は土地のある家に嫁ぐのが女の幸せと、裕福だったにもかかわらず受験料をだしてくれず泣く泣く断念。

医学の知識もあり、わがままな父にもよく耐え我慢強い、そんな母に育てられてよかったと思います。

母の教え3か条

- ① 薬は薬にもなるが毒にもなる。
- ② 金は生かして使え。

③ 人にものを上げるとき(野菜や果物等) 良い物をあげよ。母の亡くなった歳を超え、目に見えないコロナに怯え、早くワクチンを打ち、以前の楽しみながらの生活に戻りたいと願っています。

## ○渡辺博彦(昭41年卒)

コロナ過で故郷の山河を思い、毎日、所沢航空記念公園をウォーキングしております。

おかげさまで、66kgから51kgへ減量に成功。「まゆみ会」が再開されることを念じています。

元気な姿でお会いしましょう。

## ○本田清五郎(昭44年卒)

東京消防庁を退職し11年となります。就勤当時、救急救命士養成所の教官体験記を、当まゆみ会報に掲載させていただきました。良い思い出となっています。

現在は資格経験を活かし、都内大学にて救急救命士を目指す学生の指導にあたっています。

今後も安達高校卒業生の矜持を胸に、体力の続く限りプレホスピタルケア関係の業務に係わっていきたくと思っています。

コロナ禍にあります、会員皆様のご健勝ご多幸をお祈り申し上げます。



## ○阿部伊勢吉(昭45年卒)

同窓生の皆様にはますますご清祥のこととお喜びを申し上げます。

私はもうすぐ古希を迎える年齢になりましたが、元気に会社勤めをしております。

昨年からは新型コロナウイルス感染予防のため、できるだけ外出を控えて自宅で業務を行う傍ら、妻とコミュニケーション(小言)を楽しんでおります。会社務めて50年間は働きづぐめでしたので、テレワークの楽しみが身に沁みました。

最後に、コロナ過の困難な日々は続きますが、ワクチン接種を終え、コロナウイルス感染終息のメドが見えた暁には、同窓の皆様と再会できる日を楽しみにしています。

## ○小牧 林(昭45年卒)

コロナの影響で、野菜作り、切り花作りも、大きく左右されています。今、切り花はランキュラス・スターチス・キンセンカを販売しております。これからトルコキキョウ・カンパニユーラ・アスター・百日草・千日紅など、秋には菊などと続きます。

4〜5月は夏野菜のトマト・ナス・キュウリ・ピーマン・バナナピーマン、などなど、植え付けに忙しい季節です。ただ、植木屋としての剪定は半分に減らしています。なかなか顧客の所に行つて対応するには十分注意しないといけない時期です。

## ○佐藤富美夫(昭45年卒)

野山には春の花が咲き乱れ一年で一番美しい季節になりましたが、皆様にはお元気でお過ごしのことと存じます。

令和2年の総会が中止となりお目にかかれず残念でしたが、今年こそ皆様と明るい笑顔でお会いできればと願うばかりです。S45年卒の皆さん、今年は70歳です。

落ち着いたら古希の祝いをしましょう!!  
皆の笑顔を思い浮かべながら再会の日を待ちます。

## ○長南邦年(昭45年卒)

― 初めての手術とPCR検査 ―

3日、胆のう結石症の手術で興味深い経験をしました。

①胆のうを全摘出したが腹腔鏡(内視鏡)手術を実施。体に負担少ない為、3日で退院。手術ビデオは学会のビデオデータに登録・活用されることになった。

②手術前検査でPCR検査を受けた。結果は陰性でホツとした。コロナ感染がこわいので、4月から、東京へは、人混みや電車を避けるため、車を活用しはじめました。

ワクチン接種の案内も受領し、5月に受ける予定です。

(4月28日)

## ○渡辺弘次(昭45年卒)

2021年3月末で仕事を辞めました。今後は地域の中で役立つことをして、皆様と明るく楽しく過ごして行こうと思っています。

また、チャンスがあれば高齢者のために役立つ仕事をしたとも考えています。

人生100年の時代になりましたが、毎日毎日一生懸命に生きて自分の人生を全う出来ればとも思います。

私の人生訓『一期一会』です。

## ○橋本哲雄(昭47年卒)

ペランダでの植物栽培(含む菜園)をライフワークとして継続中。

変わったことは『アボカド』の木が仲間入りしたこと。食べた後、種を試しに埋めておいたら発芽。10mの太木になる由につき摘心し観葉植物として育てることに。現在30cm程の葉を茂らせ元気に成長中。

## ○大内正造(昭48年卒)

昨年65歳を迎え、定年退職となり、引き続き同じ会社にて嘱託社員として働き続けております。

銀座4丁目交差点近くのビルにて働いておりますが、コロナ禍以前は、中国人をはじめ外国人で歩道は埋め尽くされておりましたが、昨今は、日本人がほとんどとなり、人通りが少なくなっております。

安達高校を卒業して50年近くなりますが、日本一地価の高いこの銀座にて、健康で働ける喜びを感じて頑張っております。

## ○平子杉代(昭49年卒)

セーラー服に身を包み、心弾ませながら通った安達高校、あれから47年余り、走馬灯のごとく思い浮かびます。

私、学生生活後、女性消防官として東京消防庁に勤務し、そこで培った知識・技術を活かした第2の人生。今年3月で退職となり、また、これまでの知識等を活用しての臨時職員として、第3の人生を歩み始めています。

しかしながら、年齢は身体に正直で、巷の同年齢の人より若

いつもり、といった気持ちを思っている、腰、脚などで通院することが多くなりました。しみじみと実年齢というものを噛みしめている今日この頃です。

世の中、コロナ禍で大変な状態ではありますが、早く終息するよう願っています。

## ○菅野孝三(昭50年卒)

昨年から、コロナウイルスで大変な世の中になっていますね。

3月31日を持って第2の職場を退職し少し休養してから、第3の職場に挑戦しておりますよ。

皆様も健康に留意し、コロナに負けないよう頑張ってください。

## ○百川教彦(昭50年卒)

私事、今年度(令和3年度)も微力ながら期間限定で、大学の消防・防災アドバイザーとして大学の防火・防災関係の業務契約を結び、勤務しております。

## ○渡辺達夫(特別会員)

父が元安達高校の美術の教員でしたので、兄弟ともに特別会員です。

私も油絵などの美術作品には興味があり、休日は、都内の展覧会によく行って鑑賞します。

英会話も趣味の一つで、語学学校には兄弟ともによく通います。

新しい会場の総会案内を送付下さい。

## 東京まゆみ会会則

- 第1条 本会は、「東京まゆみ会」と称し、事務所を首都圏に置く。
- 第2条 本会の会員は東京を中心に広く在住する福島県立安達中学(旧制)、同安達高校(併設中学、本校および旭・針道・小浜・岩代・渋川・石井・大平の各分校定時課程、夜間過程を含む)ならびに二本松実科高女、福島県立二本松高女、同安達女子高校の卒業生、同関係者で組織する。
- 第3条 本会は会員相互の親睦と共栄を図り、併せて母校の隆盛発展に寄与することを目的とし、そのために必要な諸般の事業を行う。
- 第4条 本会は次の役員を置く。任期は2年とし、再任を妨げない。
- 第5条 会長1名、副会長若干名、事務局長1名、会計1名、常任幹事10名以内、会計監査1名、幹事20名以内。会長は本会を代表し、会務を統括する。副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。事務局長は会の運営を円滑にするため、事務上における全般を遂行する。会計は本会の金銭出納、会計管理をする。常任幹事は会務を分掌、幹事とともに会の運営に当たる。会計監査は会計を監査する。
- 第6条 会長、副会長、事務局長、会計、会計監査、常任幹事(以上を常任役員と称する)は、総会において選任し、幹事は、常任役員会で選考のうえ会長が委嘱する。なお、補欠として選任された役員は、前任者の残任期間とする。
- 第7条 幹事会が必要と認めた場合、諮問機関として顧問を置くことができる。
- 第8条 総会は年1回、臨時総会は必要に応じ会長が招集する。総会では常任役員(※幹事以外)の選任、会則の変更、会計の承認、会計監査の報告、その他重要事項を決議する。
- 第9条 総会の議事は、出席会員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところとする。
- 第10条 幹事会および常任役員会は、必要に応じて会長が招集し、総会に次ぐ重要事項や緊急事項を協議する。
- 第11条 本会の経費は、会費、寄付金などをもって充てる。会費は年額2000円とする。
- 第12条 本会の会計年度は8月1日に始まり、翌年の7月31日に終わる。
- 第13条 本会の事務執行に関する細則は、幹事会で決定することができる。
- (付則) この会則は、昭和48年4月1日より施行する。
- (二部改正)
- 平成8年9月15日  
平成13年9月9日  
平成16年8月3日  
平成22年8月29日  
平成27年8月30日  
平成30年10月13日

令和2年度年会費納入者ご氏名 その1

令和3年7月20日現在

(\*印は年会費に加えてご寄付を頂いた方。)

(卒年) (敬称略)

昭23	卷山 寛		
昭25	高橋 功	二平 満男	松井 重喜
昭26	遠藤 修	菅野 明	作田 文弥
昭27	鈴木 衛	星 秀男	森 勝夫
昭28	安斎 正敏	栗原 絹子*	小林 久
昭29	菅野 睦子	齋藤 善夫	菅野 利良
昭30	菅野 善作	菅野 博	鈴木 史朗
昭32	大河内健次	大島 庸世	紺野 英男
昭33	岡 安男	菅野 軍司	高橋 信介

(卒年) (敬称略)

昭34	安斎 隆*	安斎 宏	安藤 勇夫
昭35	長田 伸子	風間 章	神野 宗介
昭36	坂本 盈子	最上 茂	
昭37	遠藤 昭平	熊谷 紀子	佐久間 哲
昭38	遠藤 禎一	渡辺 栄喜	古谷 修一
昭39	山口 弘二	佐藤 利春	渡辺 峻志
昭40	安藤 公夫	山崎 民子	七森 栄子
昭41	鈴木 幸雄	齋藤 克彦	桜井 園子
昭42	荒卷 太多光	本間 幸次	渡辺 健司
昭44	国分 正敏	菅野 悦夫	本田 清五郎

令和2年度年会費納入者ご氏名 その2

令和3年7月20日現在

(\*印は年会費加えてご寄付を頂いた方。)

(卒年) (敬称略)

昭45	阿部伊勢吉	飯田博幸	加藤正博*
	小牧 林	佐藤富美夫	菅原広司
	長南邦年	福島精子	山岸富子
	渡辺弘次		
昭46	二階堂照夫		
昭47	荒井守仁	高野 実	橋本哲雄
昭48	大内 正造		
昭49	鈴木タミ子	野地 章	平子杉代
	松川艶子		
昭50	阿部 孝志	菅野孝三	神田久幸
	大平 公子	佐々木いせ子	鷹木伸一
	百川 教彦		
昭51	朝比奈恵子	岩本 薫	菅野 育夫
	斉藤 由紀	本田 昭則	増子 俊満
	山崎 力	山田由美子	
昭54	田村 昭彦		
昭59	佐藤 一広		
昭60	穴戸 岩	森 淳子	
特別	渡辺 達夫		

(以上 153名)

現在の役員体制

令和3年7月20日現在 (卒年順)

【顧問】	安斎 隆 (昭34)	安藤 勇夫 (昭34)
【会長】	高橋 智章 (昭41)	
【副会長】	阿部伊勢吉 (昭45)	佐藤富美夫 (昭45)
	平子 杉代 (昭49)	
【事務局長】 (兼)	佐藤富美夫 (昭45)	
【会計】	大内 正造 (昭48)	
【会計監査】	渡辺 弘次 (昭45)	
【常任幹事】	山本 紀夫 (昭34)	渡邊 浩司 (昭34)
	早川 ミツ (昭37)	百川 教彦 (昭50)
	山田由美子 (昭51)	
【幹事】	小池 茂樹 (昭41)	常住美智子 (昭42)
	菅野 孝三 (昭50)	菅野 育夫 (昭51)
	穴戸 岩 (昭60)	
		以上

会からのお願い

☆新会員ご紹介のお願い

本会は、入会の申し込みを常時受け付けております。

同期・先輩・後輩の方に入会を希望される方がいらっしゃいましたら、本会事務所宛て、もしくは、当会役員に、氏名、卒年、住所、電話番号をお知らせ頂きたく、宜しくお願い致します。

なお、新会員の方は、入会年度の年会費免除と致します。

## 編集後記

本号では、初の試みとして、会員皆様からの「近況報告」を掲載することに致しましたところ、60名を超える方々からお便りを頂戴致しました。

現在は、ご承知の通り、「集う」ことが制約されておりますので、「近況報告」が、リモートながら、同窓仲間間の情報交換の一助になれば幸いです。

皆様の「近況報告」には、新型コロナウイルス感染症の早期終息を願う内容が多くございましたが、年内にはワクチン接種があまねく行き渡り、次年度(令和4年度)こそ「コロナ明け」の対面総会・懇親会が開催できますことを切に願っております。そして、この東京まゆみ会総会の盛会をもって、令和5年に迫った母校の『創立100周年』へと、気運が盛り上がって行くことを期待致しております。

会報編集委員会

東京まゆみ会会報 第33号

発行人 東京まゆみ会 会長 高橋 智章

〒272-0033

千葉県市川市市川南3-14-11 A313

電話・FAX 047-324-7361

印刷所 モリモト印刷株式会社

〒162-0813

東京都新宿区東五軒町3-19

電話 03-3268-6301(代)